

I 実践事例

第5学年2組 学級活動指導案

日時 令和4年11月28日(月) 5校時
場所 5年2組教室
児童数 5年2組 25名(男子13名, 女子12名)
指導者 教諭 夏目 周一郎

1 題材名 「がんから学ぼう！自分にできること」

内容(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」

ウ 「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、全体的に活発で素直な児童が多い。また一人一人が自分自身の考えを大切に活動をしている場面も多い。その反面、自分さえよければ良いという思いから、相手の思いを考えず、トラブルを起こしてしまう場面も時折見られる。

運動習慣に関しては、休み時間に外に出て過ごす児童と室内で過ごす児童とが二極化している。運動不足が懸念される児童も何人か見られる。普段の食生活を見ると、ほとんどが主食・主菜・副菜のバランスがとれた食生活ができていますが、偏食傾向が強く、全く野菜を食べない児童もいる。高学年になり、長い時間ゲーム等をするすることで、夜遅くまで起きている児童も数名見受けられる。

事前に実施したアンケートの結果から、健康な生活を送るためには、がんの学習が重要であると考えている児童が多いことが分かる。また、「がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。」という問いに98%の児童が「正しい」と回答していることから、がんの恐ろしさを児童は認識していることも分かる。しかし、「自分はがんにならないと思う。」という問いに対して、63%の児童が「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答しているとともに、「がんは日本人の死因の第2位である。」という問いに対して、「正しい」と回答した児童が77%であることから、がんは日本人にとってだれでもかかる可能性があるというがんに対する基礎的な認識については、低い傾向が見られた。

6月には道徳科で「電池が切れるまで」という教材で小児がん患者を扱い、命の大切さについて考える学習を行った。クラスの大半の児童から、自分自身の命を精一杯大切にしていきたいという思いが挙げられ、自他の命の大切さについて意識の高まりを感じられた。

これらを踏まえ、本題材において、一人一人が「がん」を身近な問題として捉えるとともに、その予防法を学び、よりよい生き方について主体的に考える事ができるような指導を行っていく。

(2) 題材設定の理由

がんは40年ほど前から日本人の死因の第1位となっており、その数は増え続けている。2022年のデータによると、男性の26.7%、女性の17.9%ががんによって死亡している。生涯で2人に1人が罹患すると言われる、家族や身近な人がかかる可能性が高い病気となっており、がんは国民の生命と健康にとって重大な問題である。また、がん患者への関わり方、がん患者自身の心のもち方など、よりよい人間関係の形成や心の健康といった生活の質の保持にも関わり、がんにおける心身の健康に関する知識等は国民の基礎的教養として身につけておくことが大切である。このようなことから、小学校においてがんについての正しい知識を学び、児童に自分にできることを多面的・多角的に考えさせることで、心身の健康に対する関心を高め、望ましい生活を送ろうとする態度の育成につなげていきたい。

そこでがん経験者の話を聞くことにより、がんを通して自分の生活課題に気づき、自分に合った行動の仕方を考えることができるようになることをねらいとして、本題材を設定した。さらに、心身の健康に向けた生活や、人間関係をよりよくしようとする自分の今後の生き方についても考えさせたい。

3 評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
がんに関する知識や行動の仕方について、理解している。	自分の生活課題に気づき、自分に合った行動の仕方を考えている。	心身の健康に向けた生活や人間関係をよりよくするために、自分の生き方についての考えを深めようとしている。

4 事前指導

活動の場面	児童の活動	指導上の留意点
授業当日の朝の会	がんの発生要因や予防法などがまとめられた動画を視聴する。(文部科学省「がん教育推進のための教材」小学生版 映像教材：「がん博士の『がんについての基礎知識』」)	・がんの基本的な知識を理解させる。 ・がんに罹患している人が身近にいる児童に十分配慮する。

5 本時のねらい

○がんに対する基本的な知識やその予防法を学び、よりよい生き方について主体的に考えることができるようにする。

6 本時の展開

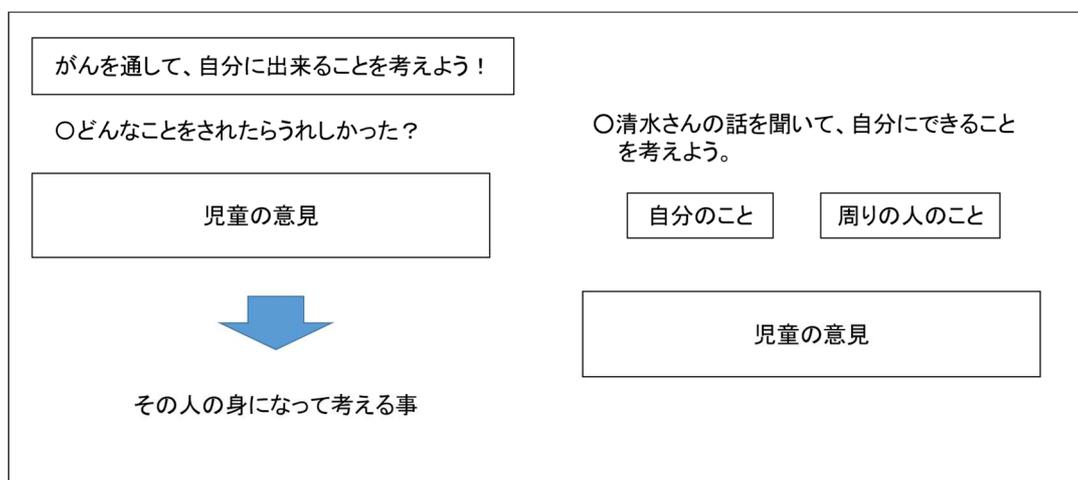
時間	児童の学習内容・活動	○指導上の留意点・資料	目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
<p>導入 (5分)</p>	<p>1 自分のお腹や頭が痛い時にどのような気持ちか考える。 ・いやな気持ち。 ・なにもしたくない。 ・いらいらする。</p> <p>2 具合が悪かったとき、どのようなことをされたらうれしかったかを考える。 ・優しく声をかけてもらった。 ・話を聞いてくれた。 ・一人にしてくれた。</p> <p>3 本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>がんを通して、講師の話を聞いて、自分に出来ることを考えよう！</p> </div>	<p>○自分の具合が悪い時を思い出させる。</p> <p>○人間関係に焦点を当て、自分の健康を害したときにされてうれしいと思うことを想起させる。</p> <p>○人によって具合が悪いときにされてうれしいことは違うことを気付かせる。</p> <p>○本時のめあてを理解し、学習の見通しをもたせる。 ・がんを乗り越えた清水さんの話から、自分の生活や周りの人との関わり方について考えようとする意欲をもたせる。</p>	
<p>展開 (30分)</p>	<p>4 外部講師の話を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>・なぜがんに気付いたか。 ・告知された時 ・治療について ・つらかったこと ・子供同士の関わりについて</p> </div> <p>5 がん予防クイズを行う。 ○外部講師がクイズを出し、解説は担任が行う。 ・副流煙について ・飲酒について ・塩分のとりすぎについて ・運動について</p>	<p>○外部講師の話を聞く際は、前の2つの発問を通して、具合の悪い時の具体的なイメージをもたせるようにする。</p> <p>○がんに気付いたきっかけから時系列で話をし、がんという病気やがん患者の気持ちに気付かせる。</p> <p>○メモ用紙にメモを書かせる。</p> <p>○がん予防クイズを通して、がんを予防するための方法を知らせる。</p> <p>○クイズの解説をし、予防に関する基礎的な知識を理解させるようにする。</p>	<p>○がんに関する知識や行動の仕方、またその気持ちについて、理解することができる。 【知識・技能】 〈メモ用紙〉</p>

終末 (10分)	<p>6 外部講師の話聞いて、自分にできること、これからしていきたいことを考え共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悩んでいる人がいれば静かに悩みを聞く。 ・規則正しい生活をしていきたい。 ・病気は関係なく、その人と接するようにしたい。 <p>7 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任の話聞く。 	<p>○一人一人一番心に残った話から、自分がこれからしていきたいことについてスプレッドシートに記入させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スプレッドシートを使うことで、リアルタイムで他の友達の意見を見られるようにする。 ・机間指導を行い、必要に応じて講師の話に対する感想ではなく、これからの生活で実践していこうとすることについて記述するよう助言する。 <p>○考えたことを今後の生活で実践していけるように前向きな言葉がけをする。</p>	<p>◎心身の健康に向けた生活や人間関係をよりよくしようと、自分の生き方についての考えを深めようとしている。</p> <p>【主体的な態度】 〈発言・ワークシート〉</p> <p>○がんで通して学んだことから、自己の課題に気付き、自分にあった行動の仕方を考えることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 〈発言・ワークシート〉</p>
-------------	--	---	---

7 事後の指導

活動の場面	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
・授業翌日の朝の会	・事後アンケートに答え、事前アンケートとの変容を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・がんに罹患している人が身近にいる児童に十分配慮する。 ・授業で学習したことを想起しながら、アンケートに答えることができるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がんについて正しく理解している。 <p>【知識・技能】 〈アンケート〉</p>

8 板書計画



外部講師のお話メモ

名前 _____

Ⅱ 実践のまとめ

【児童に対する事前・事後アンケート結果について】

質問 1 がんの学習の重要性について	実施前	実施後	増減
がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（そう思う）	93.9%	97.9%	+4.0
がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ（そう思う）	98.0%	97.9%	-0.1
質問 2 がんという病気について	実施前	実施後	増減
がんは誰もがかかる可能性のある病気である（正しい）	81.6%	93.8%	+12.2
がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり命を失ったりすることがある（正しい）	98.0%	89.6%	-8.4
がんは日本人の死因の第2位である（誤り）	22.4%	62.5%	+40.1
たばこを吸わないこと、バランスよく食事をすること、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある（正しい）	81.6%	95.8%	+14.2
早期発見すれば、がんは治りやすい（正しい）	81.6%	95.8%	+14.2
体の調子がいい場合は、定期的に検診を受けなくてもよい（誤り）	79.6%	95.8%	+16.2
がんの治療法には手術治療しかない（誤り）	69.4%	79.2%	+9.8
がんの痛みは我慢するしかない（誤り）	75.5%	95.8%	+20.3
質問 3 がんへの考えと共生社会について	実施前	実施後	増減
自分のがんにならないと思う（どちらかというそう思わない・そう思わない）	36.7%	70.8%	+34.1
将来、たばこは吸わないでいようと思う（そう思う）	89.8%	87.5%	-2.3
日頃から、バランスのよい食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	75.5%	91.7%	+16.2
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（そう思う）	89.8%	91.7%	+1.9
がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである（そう思わない）	38.8%	41.7%	+2.9
がんになっても生活の質を高めることができる（そう思う）	51.0%	56.3%	+5.3
がんになっている人も過ごしやすい世の中になりたい（そう思う）	98.0%	95.8%	-2.2
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（そう思う）	85.7%	91.7%	+6.0
家族や身近な人が健康であって欲しいと思う（そう思う）	100.0%	97.9%	-2.1
長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	100.0%	95.8%	-4.2
児童の感想			
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の友達や家族ががんになったら、みんなで支え合いたい。それで自分がなったら支えてほしい。 ・周りの人のことを気遣うのも大切だとは思いますが、まずは自分の生活習慣やバランスなどを考えながら生活することが大切だと思う。それでも、自分のできることをやりきれたと思ったのならば、他の人の生活のバランスやそれを打開するための方法を一緒に、あるいは一人だとしてもそれを達成する。 ・自分が辛いときには周りの人に相談したり、相手が辛いときには相手の気持ちに寄り添い、何をしてほしいか聞いてみたり「大丈夫?」と一言声をかけてあげたりする。 			

- ・がんになってしまった人や周りの人は不安だったりするから、どんなことをしてほしいか聞いてみたり自分にできることをして支えてあげたりすることが大事だと思った。
- ・周りの人たちががんになってしまったら、今自分ができることを考えて支えてあげることが大切。辛いことがあったら誰にでもいいから相談したり、どのようなことをしてほしいか聞いたりして、少しでも寄り添ってあげる。自分でもバランスの良い食事をとったり、運動をしたり自分で自分を守る。
- ・もしも周りの人がかかってしまったら、優しく接することが大切だと改めて感じた。自分の体と人の体どちらも大切だと感じた。どんなに辛いことがあっても、一人ではないと思いたいと思う。
- ・気軽に相談してできるだけ心配をかけない。何かいつもと違う変化があったら病院に行く。もしもだれかががんになってもいつもと同じように接してあげる。
- ・がんにならないように子供のうちから予防し、身近な人と支え合い、自分を大切にしようと思った。がんは人生にとって重い病気なので、タバコやお酒、塩分の高いものは避け、自分の人生を大切にしたいと思った。
- ・周りの人に気遣いをすることが大切。がんを予防することは誰にでもできるので、意識していきたいと思った。
- ・周りの人で「がん」になってしまった人がいたら、してほしいことを聞いたり、普段と同じように接したりする事を大切にしたいと思った。身内の人で、お酒を飲んでいたり、タバコを吸っていたりする人がいたら、声をかけてみようと思う。

〈事前アンケート結果からみる留意点〉

- ① 9割の児童が「がんは、だれでもかかる可能性のある病気である」と答えているにもかかわらず、6割の児童は「自分はがんにならない」と考えている。

日本人の死因の半分が「がん」という現実を認識することができれば、現状として将来「がん」が自分自身の身やその周りに表出する可能性が高いことが理解できるのではないかな。

- ② 「がんになっても生活の質を高めることができる。」の項目において、「できる」「できない」がほぼ同数である。

一般的に好ましくない状況としてとらえられている状況に陥ったとき（例えば「がん」と診断されたり、事故に見舞われたりすること）、その状況によって生活や環境が大きく変わり、生活の質が低くなる、ととらえているということがわかる。

しかし、どの人間にも何らかの要因で生活や環境が大きく変わる可能性があり、どのような状況に陥ったとしても、生活の質を高めることは「できる」のである。児童にとってはこれから長い人生の始まりである。どのような状況においても生活の質を高めることができることを知り得ることで、希望に満ちた（どのような状況になっても大丈夫という気持ちを持続できる）生活を送らせることができるのではないだろうか。

〈事前・事後アンケートの考察〉

学習を通して、がんはだれでもかかる可能性がある病気であること、がんは死因の第一位であること、そして、自分もがんになる可能性があることを理解した児童が増えていることがわかる。学習内容を理解すると同時に、がんという病気を自分にも関わる病気であることを意識することができたと思われる。

質問3の「がんになっても生活の質を高めることができる（高めることができる）」については、事前事後において変容が少なかった。その要因として、がんそのものの病気としての知識、命にかかわるような病気にかかってしまった時のその後の生活の質の向上について、質問2の「がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり命を失ったりすることがある（正しい）」からも、がんになることで「今まで通りの生活ができない」といった点を知ったことによるものであると思われる。しかし、これはがんにならないように予防することや、定期検査の必要性につながるものである。

生活の質の向上については、がん教育の究極の課題であると考えている。1つの授業で意識を高められるものではないので、6年生での体育科保健領域等の学習においても取り組んでいきたい。また、中学校や高等学校でのがん教育においても「生活の質の向上」についての学習を期待するものである。

【「がん教育推進校授業公開」アンケート結果（甲府市立甲運小学校 R4.11.28実施）】

対象者 がん教育総合支援事業推進連絡会委員2名，一般参加者35名

	達成できた←			→ 達成できなかった	
	5	4	3	2	1
本時の目標は達成できたか	24	13	0	0	0
外部講師の活用は効果的だったか	34	2	1	0	0
学校におけるがん教育を進めるうえで、本日の授業はどうだったか	27	9	0	1	0

〇ねらいについて

本時のねらい

「がんに対する基本的な知識やその予防法を学び、よりよい生き方について主体的に考えることができるようにする。」

- ・子どもたちが清水さんの話を聞き驚きが多かった。特に二人に一人の人ががんにかかっていることを聞いて衝撃を受けていた。がんというものを理解した上で自分に（自分のために）できること、周りの人にできることの視点で考えさせたかった。授業では前向きな意見が多く良かった。「がんにならないため

に自分が運動や栄養もとれた食事をするのが大事だ」など自分のためにできること（「自分ごと」の一つのとらえ）の感想が多かった。

- ・最後の担任の話で「いい話を聞いてよかったなあ、だけではなく、今日からできることを変えていこう。」と投げかけていたところが良かった。
- ・周りの人への関わりを書いてあるものが少なかった。もし周りの人ががんになってしまったら、という視点での感想も期待していた。授業展開において、前半が清水さんの講話を聞いて周りの人との関わりについて、後半はクイズなどでがんの理解（予防）についてそれぞれ考えさせたので、後半の部分が特に印象に残ってしまった可能性がある。ふりかえりの場面では、前半部分も思い出させるような言葉かけが必要だった。
- ・行動変容（主体的に考えることができるようにする）を目的とするならば、どこかで本音を引き出させる工夫が必要ではなかったか。さらに日常化へとつなげていきたい。
- ・定期的な声かけも大切。行動変容へとつなげていく。

○授業展開について

- ・前半に実話（現実的な話）、後半に（がんの）予防についてという展開が良かった。後半に現実的な話にするとがんへの恐れだけが残ってしまっただけで前向きではない感想が多くなってしまいう可能性もあるので、今回の流れで良かったのではないかな。
- ・授業後に外部講師に話しかけ、励ましてくれた児童がいた。それだけ話が印象に残せたのではないかなと思ひ、今後の活動にも励みになる。
- ・がん教育というセンシティブな内容が含まれるので、家族状況もふまえての配慮が必要である。がん罹患している家族がいる児童には、授業前に声かけを行った。
- ・5学年での学活での取り扱い（がんそのものの学習から始まるのではなく、もし周りの人が困っていたら、病気を患っていたらどうしますか、の問いから始まる）は適切だととらえる。人権や生命に関わる病気だからこそ、5学年の時点で少し触れさせることで、6学年の学習により詳しく、がんだけでなく他の病気についても知りたい、という思いが産出されると思われる。
- ・時間配分が気になった。最後は早口になってしまった。
- ・子どもと子ども、子どもと外部講師、子どもと担任との交流の機会が少なかった。交流するまでの時間が45分では難しい。時間がないとするならば、単位時間を60分の設定でも良かったのではないかな。

○外部講師の活用が効果的だったか

- ・打ち合わせの回数は、授業連絡会で1回、指導案の流れがある程度できたところで2回。計3回。メールでの確認もあった。前半の外部講師の方が中心の場面と後半の2人で進める場面とを分けた。子どもたちも外部講師の話に集中することができた。
- ・体験談があることで、子どもたちも真剣に聞くことができた。はじめの「周りの人が困っていたらどうする」の問いかけの答えになるような講話となり、子どもたちの心に残る話だった。前半はがんになっても周りが支えることができれば大丈夫、乗り越えていける。後半はその重いがんも予防できることを明るくクイズ形式で行うなど、授業の中にメリハリが付いていた。
- ・最後に「生活習慣」「未来の自分」「支え合い」のがんを乗り越える3つの重要ポイントを担任と外部講師が共同してまとめていた。また担任の言葉で「命のバトン」を受け継ぐという話もこれまでの学習（道徳など）とのつながりを感じさせてよかった。

○授業のまとめについて

- ・最後、担任の言葉で「未来の自分をつくるのは今の自分だよ。」という言葉が子どもたちに響いたのではないか。
- ・授業の感想をPC上にシートの共同作成の形（Google スプレッドシート）でだれからも見られる形で行ったが、教育内容や指導意図に応じた（交流して見られるのならば「自分ごと」が書けなかったかもしれない）ふりかえり方法を考慮する必要がある。

○がん教育を実施するに当たっての課題

- ・がんの認知度は比較的高い（テレビCM等の影響）が、理解度は低い。（特に、がんを罹った後の生活、生き方・人生の質 QOL）
- ・がんに対する教員自身の無知の実感
- ・がん教育の重要性（身近な病気であること）
- ・がん教育をどこから行うべきか（行うのが適切か）。文部科学省が定める学習指導要領では6学年の体育科保健領域であるが、5学年でその入り口（きっかけ）として扱うことで、円滑にその後のがん教育につなげていくことができるのではないか。さらに学習を深めていくことによって、人生の生き方の質（QOL）への意識の高まりについても期待するところである。
- ・道徳生命の尊重、体育科保健領域との関わり
- ・外部講師をいかに確保して、上手に活用していくかがキーポイント
- ・他教科と関連させながら、健康への意識、大切な命、支え合いなど、学年の発達段階に応じた指導ができるよう、校内での共通理解が必要。
- ・児童だけでは生活や食事の改善などが難しいところもあるので、保護者にも一緒に聞く機会があっても良いのではないか。

【甲府市立甲運小学校におけるがん教育について】

- ①がんについて、児童が自分自身や家族にとって身近なものであることを実感させることができるような指導の在り方（教材・教具も含め）
- ②どのような状況においても生活の質を高められるような前向きな考えを持たせられるような指導の在り方（「経験に勝るものはない」と言われるが、経験者の話を聞くことでより身近な課題であることととらえさせ、今後さらに学習を深めていく準備とする。）

イメージ図

